

個に応じたきめ細かな指導の充実を図り、児童生徒一人一人に「確かな学力」が身に付くよう指導を充実しましょう。

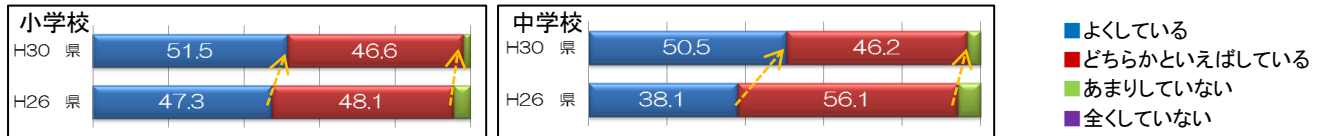
この資料では、第2次岐阜県教育ビジョンの最終年度にあたる本年度までに、子どもたちや先生方の意識がどのように変わったのか、また、今後どのような指導改善が考えられるのかについてまとめています。



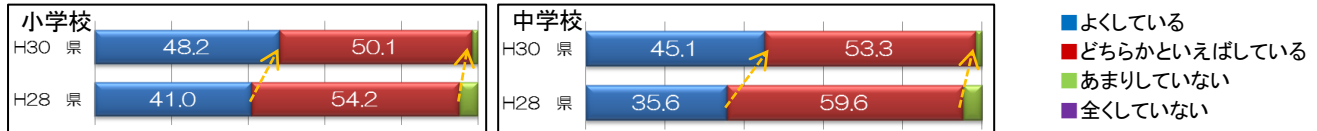
1 第2次岐阜県教育ビジョンで掲げた指導改善の取組の重点から

第2次岐阜県教育ビジョンの重点施策「学力向上を核とした小・中学校教育の改善」の中に示された、岐阜県の小・中学校が目指すべき方向について、本年度の全国学力・学習状況調査における学校質問紙調査の回答状況を見てみます。

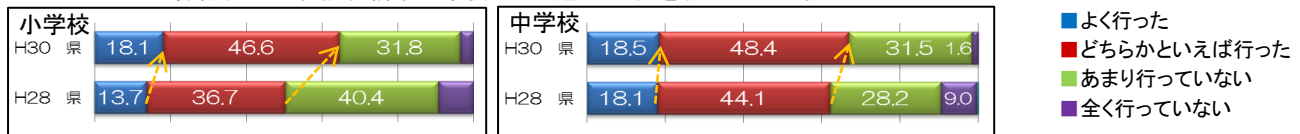
【学校質問紙】 学習指導と学習評価の計画の作成にあたっては、教職員同士が協力し合っている。



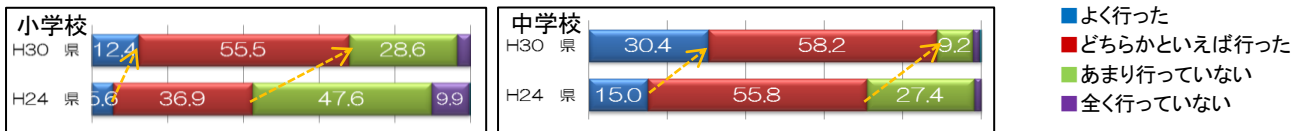
【学校質問紙】 児童生徒の姿や地域の現状に関する調査やデータ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。



【学校質問紙】 近隣等の小・中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行っている。



【学校質問紙】 理科の指導として、前年度までに、補的な学習の指導を行った。



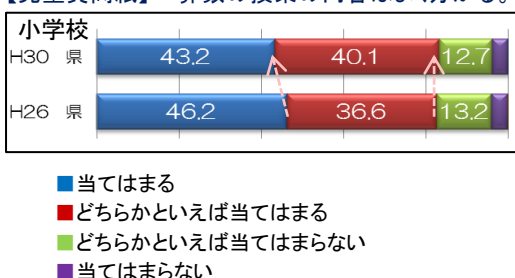
過去の結果と比べると、多くの学校で全職員が協力して、客観的データを活用した分析を行い、指導改善プランを作成して実施し、検証する「指導改善サイクル」を確立してきたことが分かります。また、例えば理科で見ると、補的な学習の指導を行っている学校の割合が増加しています。

これらの結果には、一人一人の個に応じたきめ細かな指導をしようとする各学校の取組の成果が表れています。今後も、これまで行ってきた指導改善の取組を一層充実させていきましょう。

2 新学習指導要領の全面实施を見据えて

本年度の全国学力・学習状況調査における児童生徒質問紙調査の回答状況を経年で比較したり、全国と比較したりすると、今後さらに工夫することができるポイントが明らかになってきました。

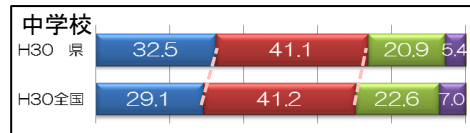
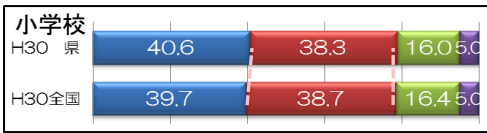
【児童質問紙】 算数の授業の内容はよく分かる。



1 どの児童生徒も「分かる」、「できる」を実感できるように、「定着状況の見届け」を継続する。

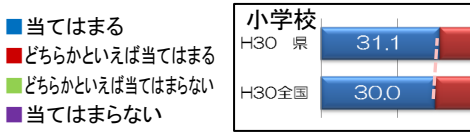
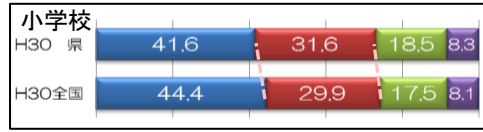
例えば、「算数の授業の内容はよく分かる」という質問に肯定的な回答をした児童の割合は、平成26年度と同程度ですが、「当てはまる」と回答した児童の割合は下回りました。今後も「定着状況の見届け」を継続しながら、どの子も「分かる」、「できる」を実感できるように、授業改善を図ることが大切です。

【児童生徒質問紙】 算数・数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える。



■ 当てはまる
 ■ どちらかといえば当てはまる
 ■ どちらかといえば当てはまらない
 ■ 当てはまらない

【児童質問紙】 算数の授業で、新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思う。(小学校)



■ 当てはまる
 ■ どちらかといえば当てはまる
 ■ どちらかといえば当てはまらない
 ■ 当てはまらない

■ よくできた
 ■ 時々できた
 ■ あまりでてこなかった
 ■ 全くでてこなかった

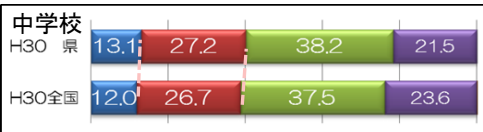
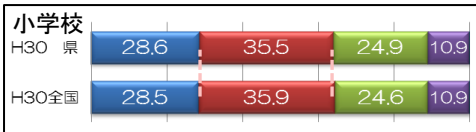
2 「もっとやりたい」、「とことんやりたい」と思う児童生徒を増やす魅力ある授業を推進する

「算数・数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える」という質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、中学校では全国より若干高い傾向があるものの、小学校では全国とほぼ同程度になりました。また、小学校において、算数の授業で新しい問題に出合った時にそれを解いてみたいと思う児童の割合は全国よりも低く、理科の授業で授業後にもっと知りたいことができたという児童の割合も、全国と比べてもそれほど高くはありません。

今後、「もっとやりたい」、「とことんやりたい」と思っている児童生徒を増やせるよう、魅力ある授業を推進していくことが大切です。

3 「もっとやりたい」、「とことんやりたい」と思う児童生徒を増やすために

【児童生徒質問紙】 算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える。



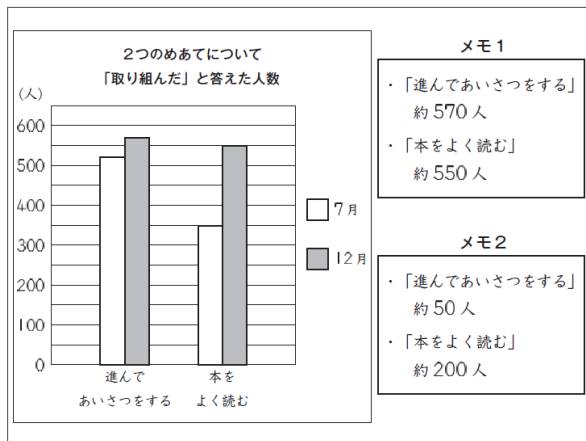
■ 当てはまる
 ■ どちらかといえば当てはまる
 ■ どちらかといえば当てはまらない
 ■ 当てはまらない

例えば、「算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」という質問に肯定的な回答をした児童の割合を全国と比較すると、ほぼ同程度です。全国学力・学習状況調査の問題を見ると、実社会・実生活の場面と関連がある問題が複数出題されています。

小学校の先生も、中学校の先生も、どの教科の先生も、調査問題に込められたメッセージを理解しながら解くことで、今後の授業改善の在り方を見直してみましょう。

平成30年度 小学校 算数B 3 (1) の設問

問1 メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてどのようなことに着目して書かれていますか。それぞれ着目していることを、言葉や数を使って書きましょう。



メモ1
 ・「進んであいさつをする」
 約570人
 ・「本をよく読む」
 約550人

メモ2
 ・「進んであいさつをする」
 約50人
 ・「本をよく読む」
 約200人

えりかさんとまさるさんは、しおりさんが書いたメモについて話し合っています。



メモ1を見ると「進んであいさつをする」のほうが人数が多いです。でも、メモ2を見ると「本をよく読む」のほうが人数が多いですね。



メモ1では、「進んであいさつをする」のほうが人数が多く、メモ2では、「本をよく読む」のほうが人数が多いのは、なぜですか。



メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてちがうことに着目して書いているからです。

しおりさんが言うように、メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてちがうことに着目して書かれています。

複数の観点で示された情報とグラフを関連付けて解釈し、表現することを通して、日常生活の事象を、グラフの特徴を基に、複数の観点で考察したり表現したりすることを求めています。

県の平均正答率：22.5%（全国：20.7）

平成30年度 中学校 国語B 2 ニ の設問

2 山川さんは、総合的な学習の時間に、ロボットについて発表しています。次は、山川さんが発表のために作成した【資料】、【発表の直前場面】と、それに続く【発表・質問の一部】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。（【発表の直前の場面】の□の中は、頭の中で考えていることを表します。）

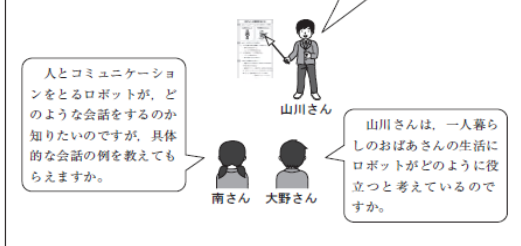
問 南さんと大野さんに続いて、あなたが山川さんに質問するとしたら、どのような質問をしますか。実際に話すように一つ書きなさい。（後略）



【発表の直前の場面】

これから「ロボットに期待すること」について発表します。
 こちらの資料の①を見てください。私は、人とコミュニケーションをとることができる人型や動物型のロボットについて調べました。皆さんはこのようなロボットを見たことがありますか。それぞれのロボットによってできることは少しずつ違います。図にまとめましたが、特に私が注目したのは、人と触れ合うことで、一人一人の顔を覚えたり、接する相手に合わせて動いたりするロボットがあることです。ロボットも人間と同じように学習するということが驚きました。
 私は、このような人とコミュニケーションをとることができるロボットを祖母に贈りたくまりました。遠くに住んでいてなかなか会うことができない一人暮らしの祖母の生活に役立つと考えたからです。
 ここまでで何か質問はありますか。

【発表・質問の一部】



ロボットに期待すること

1 人とコミュニケーションをとるロボットの例

人型のロボット	動物型のロボット

2 ロボットができることの例

- 人の言葉や行動を認識して反応する。
 - ・ 簡単な日常会話をする。
 - ・ ニュースや天気予報を伝える。
- 人と触れ合うことで学習する。
 - ・ 一人一人の顔を覚える。
 - ・ 接する相手に合わせて動く。

3 これからの社会とロボット

- ・ 65歳以上の人口の割合は、2060年には日本の総人口の約4割になる見込み。
- ・ 総務省のアンケート調査では、60代以上の54.5%が、人とコミュニケーションをとるロボットを「利用したい」、「利用を検討してもよい」と回答。
（総務省ウェブページによる。）

2 山川さんは、総合的な学習の時間に、ロボットについて発表しています。次は、山川さんが発表のために作成した【資料】、【発表の直前場面】と、それに続く【発表・質問の一部】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。（【発表の直前の場面】の中は、頭の中で考えていることを表します。）

質問の意図を捉え、話の展開に注意して聞きながら質問を考え、全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえて話すことを求めています。

県の平均正答率：88.5%（全国：88.3）

他の設問においても、例えば、小学校・国語A問題「『オムレツのページ』から、目的に応じて必要な情報を捉える」、中学校・数学B問題「理想化・単純化することで表された列車のダイアグラムを、事象に即して解釈する」、中学校・理科問題「光の反射の幾何学的な規則性をテレプロンプターのモデルに適用する」など、様々な教科等の学習や実社会・実生活と関連した場面が取り上げられています。

新しい学習指導要領でも、教科等横断的な視点に立った資質・能力として、学習の基盤となる資質・能力を「言語能力」、「情報活用能力」、「問題発見・解決能力」等と整理しています（学習指導要領 総則編 小学校P47～P52、中学校P48～P53）。変化の激しい社会の中で、主体的に学んで必要な情報を判断し、よりよい人生や社会の在り方を考え、多様な人々と協働しながら問題を発見し解決していくために必要な力を、児童生徒一人一人に育てていくためには、あらゆる教科等に共通した学習の基盤となる資質・能力、教科等の学習を通じて見につけた力を統合的に活用して現代的な諸課題に対応していくための資質・能力を、教育課程全体を見渡して育てていくことが重要です。